

心を動かす言葉

加賀美 幸子氏(駒11) 講演



昨年10月25日(土)、元NHKエグゼクティブアナウンサーの加賀美幸子さん(駒11)を講師にお招きし、駒場高校PTA・駒場松桜会共催による講演会が旧芸術高校ホールにて開催されました。参加者約220名という盛況ぶりでした。

テーマは「心を動かす言葉」。駒場時代の思い出を始め、NHK時代のご経験、定年後も現役時代と変わらずご活躍のお仕事について、とりわけ力を注いでいらっしゃる古典講読への思い等を90分にわたりお話しいただき、その後は校長先生、PTA会長、卒業生を交えての座談会が行われました。加賀美さんの講演の一部をご紹介します。



第96号

2015年4月1日発行

一般財団法人
駒場松桜会

都立駒場高校同窓会

〒153-0044

目黒区大橋2-18-1

都立駒場高校内

TEL/FAX

03-3466-7579

(毎月曜日の業務日
以外は留守番電話)

携帯電話からも住所変更ができます。



住所変更専用
QRコード

◆ 駒場が大好き

学校群制度が始まる前、第2学区では女子のトップ校と言われた駒場に入學できてとても嬉しかったのですが、周りを見回すと各中学から選ばれた優等生ばかり。せっかく駒場に入學できたのに自信を無くしたという人も多くいたようですが、私はその中に埋もれることで肩の荷がおりたように気持ちが楽になりました。新鮮だったのです。

とは言うものの、気持ちが軽くなった一方で、軽い自信喪失に陥ったところもあります。あるとき母が先生から「その大学に行くのならもつとがんばらなくては」と言われたことがありました。私は先生にそう評価されたことが寂しくて、恥ずかしくて、忘れられない言葉になりました。同じことでも「大丈夫よ、がんばれば」と息づかいも含めておっしゃってくださったら、多分嬉しく感じてがんばれたと思います。言葉には、言葉の心、言葉の力というものがあり、魔術があるのです。

◆ 言葉と共に半世紀

敗の場でもあったのです。でもそれがバネとなり、力となってここまでやってこられたのだと思います。NHK時代も毎日試験のような日々でしたが決して逃げませんでした。その元は駒場にあったのです。

言葉というものは考える道具であり、伝える道具であり、何より自分自身に向かって叱咤激励するための大事なものだと思っています。若い人たちの事故や事件を耳にするたびに、自らを慰め、励ます言葉をもっていればどんなことも乗り越えられるのにと、つらくなります。

今日は言葉と共に半世紀歩んできました。アナウンサーの言葉への思いをお話しいたします。その前に少し我が道のりを紹介します。

アナウンサーになって50年以上になりますが、定年後も大河ドラマ「風林火山」、「NHKアーカイブス」、「ラジオ深夜便」、「BS列島縦断俳句・短歌スペシャル」などの番組を担当してきました。またNHKホールでの「全国短歌大会」は約20年続けています。NHKラジオの「古典講読」、今は「奥の細道」を、来



講演中の加賀美幸子氏

年度も芭蕉を読んでいます。ドキュメンタリー番組のナレーションも多く、雑誌「家庭画報」の年間対談も行っています。

駒場時代は文芸部にいましたから、書くことも好きです。拙著の中のエッセイは中学や高校の教科書に採用されていますが、生徒さんたちに読んでもらえることが何より嬉しいのです。

◆ 古典を読むことの大切さ

日本の文化、言葉の心や力を考える上で、「源氏物語」やその他の古典はどうしても読みたい、読まなければもったいない。千年も生き続けているのですから。学校では「古くて難しい古典」と教えられますが、本当は易しくて楽しいのです。私が参

加しているNPO朗読文化協会では古典指導者養成講座、通称学校プロジェクトを実施しています。教室で子供の時から古くて新しい古典、日本語の豊かさを、耳で、心で、覚えていくということとは本当に意味のあることだと思えます。私も古典のおかげで言葉の豊かさを知りました。何より古典からは生き方のメッセージが聞こえてくるのです。また古典を読み続けてきたおかげで何だかゆとりが出てくるような、そんなことを実感しています。ですから少しでもお役に立てればという気持ちで、あちこちで古典を読み、語っています。

講演後半では、源氏物語を例に古典を読むことの楽しさについてお話しになりました。物語の中で詠まれている歌を加賀美さんが朗読されると、皆そのゆとりとした心地よい声に思わず引き込まれました。

※心を動かされた言葉
仕事柄多くの人に出会って、多くの言葉に心を動かされました。心を動かされた言葉を探っていくと、必ずその人の人間としての「ゆとりの心」に気付かれます。

例えばホリスティック医療(編集部注:西洋医学に中国医学、氣功、代替療法などを取り入れ人間をまるごととらえる医療)の第一人者の帯津良一先生に「勉強したいけれどもこの年では

ちよつと無理でしょうか」とお話ししたところ、「何を言っているのですか。死んでからも続けるつもりでやれば、いつ始めたっていいじゃないですか」とおっしゃるのです。それをお聞きしたら、いつから始めてもいいのだと本当に嬉しくなりました。

他にも数え切れないほど多くの方々の言葉に心を動かされました。なぜ心を動かされたのかというと、それは話し手の言葉の表現に現れる息づかい、生き方のゆとりの心です。そしてどの方もプラス思考であることに気付かされました。

こういう生き方のメッセージを探して、うかがって、伝えるのが私たちの仕事でもあります。

◆プラス思考

若い頃上司から「あなたは今どき流行らない」と言われました。でも私はプラス思考で、「流行らなくたっていいわ、流行るものはいずれ廃れるのだから」と楽天的に考えました。流行り廃りのないものを大事にしていることと、古典や福祉関係の番組、地味で目立たない仕事を徹底的にやりました。それが今に続く力になりました。神様とも何ともわからないサムシング・グレート、誰かが見ていてくれるはず、そういう気持ちでした。すべては捉え方次第だと思います。

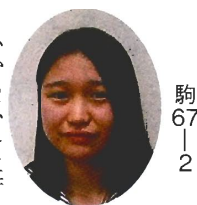
年齢だっけそうです。「歳を取っちゃった」ではなく「また歳を取ることができた」と思うのです。自然災害や戦争、貧困、病で命を落とし、歳を取ることができない人がどれほど多いことか。そう思うと歳を取って本当にありがたい。会場に今日も90代の先輩がいらつしやると聞いて本当に嬉しいです。精神力だと思えます。特に第三高女の皆さんは心の力がお強いからです。

◆最後に

政治、外交、教育、職場でも家庭でも、すべて相手の心を動かさなければ何事も成就しないということ、痛ほど経験しています。相手の心に言葉を届ける。それは先ほどお話しした「プラス思考」「心のゆとり」とも関係がありそうです。そして「息づかい」。言葉というのは、本当に人そのものなのです。

略歴

東京生まれ。1963年、NHK入局。ニュースから古典まで幅広く担当、女性初の理事待遇となる。退職後もアナウンサーを続け、ライフワークとして古典の原文朗読を中心に、様々な活動を展開。「千葉市男女共同参画センター」名誉館長、「NPO日本朗読文化協会朗読名誉会長」、「植草学園大学客員教授」、「放送人の会理事」、「日本文藝家協会会員」、「公益財団法人長寿科学振興財団理事」他多数の公職も務める。著書に「心を動かす言葉」「ことばの心・言葉の力」他多数。CDも多数。



駒71-2 本田 光子
駒場高校での3年間はとても充実していて、「この学校に入られてよかった」と心から思える毎日でした。

私は百人一首部に入り、部活に励む日々を送りました。実力が思うように伸びず、つらいと思うこともありましたが、切磋琢磨し合える仲間そして先輩方や後輩の支えのおかげで頑張り続けることができました。一番の思い出は3年の夏の全国大会です。出場することさえ決して簡単ではないこの大会でベスト8という成績を残せたのは、私達を含め、先輩方、後輩達皆の努力や思いの賜だと思えます。こんなにも人と人とのつながりが強く、素晴らしい部活に入れたことは私の一生の誇りです。そしてこの頑張りがあったからこそ勉強も限られた時間のなかで、一生懸命できたのだと思います。



駒67-7 鯉沼 佑
駒場高校での3年間は今までの人生の中で最も忙しく、あっという間でした。

限りある時間の中で勉強、部活、行事といった多くのことに取り組まなければならない、文武両道を達成することの難しさを実感しました。しかし、忙しかった中でも最後までやり遂げたという気持ちが今の自分に

はあります。それは周りの人の支えがあったからです。私は硬式テニス部の部長を務めていましたが、最初は皆をまとめる自信がありませんでした。それでも部員や顧問の先生方、両親が背中を押してくれたので、引退のときまで続けることができました。それは、勉強や行事への取り組みについても同じことが言えると思います。

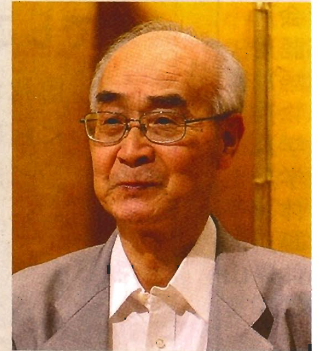


駒67-1保 宇治川 景
私の3年間という期間はあっという間に過ぎていきました。が、きらきらしている思い出や二度と経験したくない辛い思い出など沢山詰まっています。とても濃い3年間でした。

そんな濃い日々の中でも、3年間を通してとても大きな事を学びました。入学して一年目は慣れない高校生活や部活での1年生としての仕事があり、早く上級生になって解放されたいと思っていました。そして憧れていた最上級生になった時、模範となるように日々生活し、常にチームの事を考えてなくてはならないという立場におかれて初めて、人の立場を気遣い、組織の各々の役割というものを意識するようになりました。当たり前の事ではありますが、日々充実した駒場高校であったので私自身に染みて感じる事ができたのだと思います。この経験を生かし、常に人が関わっているということ意識して過ごしていきたいと思えます。

せんせ.

第15回



略歴
 1931年 新潟県十日町市生まれ
 1956年 東京学芸大学卒業
 1977年4月 都立駒場高校に赴任
 1985年4月 都立新宿高校に転出
 1992年3月 都立新宿高校定年退職

駒場で過ごした至福の日々

小野塚 克治 (日本史)

教師になった時、同一校に勤続10年という原則を建てた私にとって、駒場は三校目の職場でした。下町の創立10年という若い学校から、山手の旧府立第三という伝統校に転勤してきた私には、別天地にきたような感じでした。

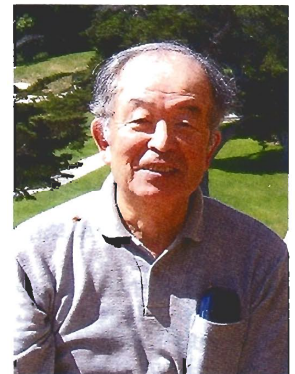
駒場に8年間勤務の後、旧府立六中の新宿高校に転じ、定年を迎えました。女子系の駒場と男子系の新宿を経験してきたことは、私の教師生活にとって、またとない貴重な体験でした。同じ都立校でありながら、きめ細やかな駒場の指導と、万事に大まかな新宿とは、大きな違いがあり、学校の歴史と伝統ということについて考えさせられました。

私は、全日本スキー連盟の公認指導員の資格を所持していたので、学校のスキー教室のほか、保健体育科のスキー学校にも参加させて頂きました。いずれも忘れ難い思い出があります。

私は84歳になりましたが、駒場時代は気力・体力ともに最も充実していたと思います。36年間、一教師としてひたすら生徒とともに歩いて来たつもりですが、幸せな教師生活だったと感謝しています。時に駒場を訪ねると、往時とは一変した新校舎に驚きますが、行き交う生徒たちからは、当時そのままの駒場の雰囲気を感じられ、ホッとさせられます。いつまでも、駒場の伝統が失なわれることなく、受け継がれていくことを、切に願っています。

同窓生 spirit

人との出会いは大切に 唐橋 秀男 (駒7)



人との出会いは大切にしたいものです。クラスメイトであれ、教室の先生であれ、人との出会いは人生行路の飛躍するエネルギー蓄積の踊り場です。三年間の高校生活は長い期間ではありません。しかし、この世代は好奇心旺盛で、感受性も高く意義深い年頃です。

さて、松桜会の依頼による投稿、一筆申し上げます。自己紹介ですが、駒七の卒で、1971年以降アメリカ・サンフランシスコ近郊を生活の場としています。駒七卒の後、慶應義塾の工学部を卒業、三井物産に入社、担当業務がアメリカの原子力技術を日本に導入すること、この仕事のため、1971年にサンフランシスコに転勤し、2000年にいたるまで、原子力業務に没頭、退職後もベイエリアを生活の場としている次第です。広大なアメリカの

中で、私の経験は西海岸のカリフォルニア州の北部、ベイエリアです。

多くの方々がサンフランシスコを訪れた経験をお持ちだと思います。街中は急坂が多く

3 在校生への提言

日本の若い世代が世界を舞台に活躍しているのを見るのはうれしいと思います。興味のあることに飛び込んで、とことん追求することです。クラブ活動への参加はお勧めで、意に沿うクラブがなければ、ご自分で作ることも考えることです。

ドバイスをするのが適切でしょう。

2 学校へお願い

生徒各個人が持つ特性、能力を引き出す教育をお願いします。

1 同窓会へ

後輩の育成にお力添えください。後輩、子育て、孫育てに際しては、本人の希望に沿うよう援護役として、成長を見つめながら適宜経験事例からア

略歴

1960年 慶應義塾大学工学部卒業
 三井物産(株)に入社、原子力業務を担当
 1971年 サンフランシスコに転勤
 2000年 退職まで原子力業務を担当
 勤務地はサンフランシスコと東京を振替勤務

(子供の頃から病弱で、1964年の頃まで休みがちな生活でしたが、いつの日か体質が変わって、今までよく生きてきたものと思っています。)

次回 「松桜会コンサート」 のお知らせ

2015年11月28日(土)14時から東京オペラシティリサイタルホールでトロンボーン奏者、村田厚生さん(駒29)によるコンサートを予定しています。どうぞご期待ください。



2014年度 駒場松桜会コンサート

2014年12月6日(土)、東京オペラシティリサイタルホールに神野優子さん(駒17)、宮林陽子さん、川名ひさ子さん(駒17)をお迎えしてヴァイオリン・コンサートが開催されました。よく晴れた寒い日でしたが、開場時刻より前から何人もの方たちが会場の扉の外で待っていただきました。

明るい緑地にピンクの花のドレスで舞台上に登場した神野さんの演奏は「アヴェ・マリア」で始まりました。第一部は「アヴェ・マリア」に続いて「精霊の踊り」、「セレナーデ」など、有名な小品が続き、曲と曲の間にはさまれる神野さんのトークに会場はなごみます。優しいヴァイオリンの音色にせわしない師走の日々をしばし忘れ、会場の皆さんはほっと心が癒されたことと思います。

第二部は神野さんの双子のお姉さま、宮林陽子さんとのアンサンブルで、童謡作家で有名な草野信、海沼實の両氏の作品をメドレーで演奏してくださいました。「夕焼け小焼け」や「みかんの花咲く丘」など耳に親しんだ曲が、ヴァイオリンの二重奏でこのようにすてきにアレンジされるのかと、うきうきと心がはずむようで、あっという間に時間が経ちました。最後はブラームスのハンガリー舞曲第一番、ヴァイオリンの華やかな技巧で楽しませていただきました。

神野優子さんは、長野県のご出身ですが、都立駒場高校を志望されて転校までなされたといいました。演奏の合間のトークにもその当時の熱意を感じ、充実した高校生活を送られた幸せが聴衆にも伝わってきました。アンサンブルのピアノを務めてくださった川名ひさ子さんも駒場の同級生です。宮林陽子さんとともに、温かなひと時を贈ってくださいました。気づけば最後のアンコール曲、ブラームスのハンガリー舞曲第六番の最後の響きが去り、会場のみなさんもっと聴いていたかったことと思います。



「同窓の集い」 ご出席予定!

(幹事学年の担任)

- 小川 碧 先生
- 小野塚克治先生
- 小原 孝久先生
- 佐藤 潔 先生
- 清水 哲郎先生
- 杉野 正雄先生
- 田辺 仁士先生
- 土田 敏裕先生
- 平島 満 先生
- 緑川日出子先生
- 山崎 和彦先生
- 吉田 弘安先生

(50音順)

(現在も順次お集まり)



平成

第16回コチロン合宿報告と今後の予定

2014年10月7、8日、コチロン合宿が武蔵嵐山の国立女性教育会館で行われました。今回の参加者は18名で、第三の参加者は小杉さん(第三33) 一人でした。皆さんお元気に凛とした姿勢でコチロンを踊られ、夕食後には同窓生の語らいに素敵な時を過ごされました。

創立百周年記念行事の一つとして「コチロンを踊る」デモンストラーションを成功させるために故小貫房枝先生(元体育教員)の発案により始められたコチロン合宿が毎年引き継がれてきました。このような年齢を超えた貴重な機会を大切に継承していきたいのですが、宿泊をする参加者が毎年減少してきている為、2015年度の合宿は休止して、都内で日帰り参加できる特別練習日を設ける予定です。

詳細は次号の会報にてお知らせいたしますが、初めての方も大歓迎です。毎月の「コチロンを踊る会」にも是非ご参加ください。

●コチロンを踊る会

日時 4、5、6、7月
毎月第3火曜日、月1回土曜日
午後2時～4時
会場 生徒ホール
(変更の場合は掲示します)



コチロン誌編集の資料提供のお願い

コチロンの資料を集めています。ご協力くださる方は、4月末までに松桜会事務局までご連絡下さい。

都駒祭参加報告 2014年9月14・15日

今年度9月14日、15日都駒祭に参加させていただき、仰光寮では香淳皇后直筆の掛け軸「桃の春」を一般公開、今年度の松桜会講座「きりえ」(講師 小西明子 駒7) 受講者の作品展を同時に開催しました(来場者360名)。駒場松桜会・同窓会の存在を多くの生徒さんに知っていただきたく、203教室で「駒場松桜会活動紹介」として今まで行われた講座、コンサートの紹介をしました。また「お休み処」を設営し、冷たいお茶を提供いたしました(来場者820名)。

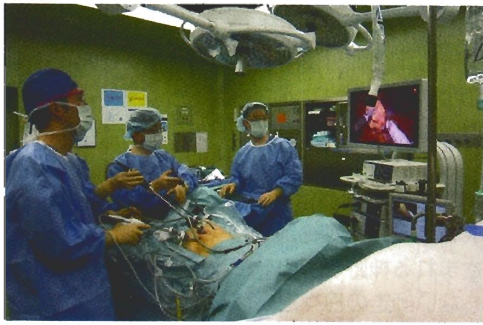


駒37 いさ

15の春、人生の33年が経ちましたに立たんとする駒好機です。お一人同窓会」と記入しにご一緒致しました世の中は出会いの交流、友人との皆様の笑顔にお

20年だよ!

駒47の皆さん、この度、同窓の集上部の池上と、普通高校を卒業して、...皆さんそれぞれそんな時に、ふと久しぶりのクラ会いして、近況をて、みんなで盛り。改めて駒47の皆



腹腔鏡下大腸手術

医療のいまどき情報

大腸癌について

池 秀之 (駒24)

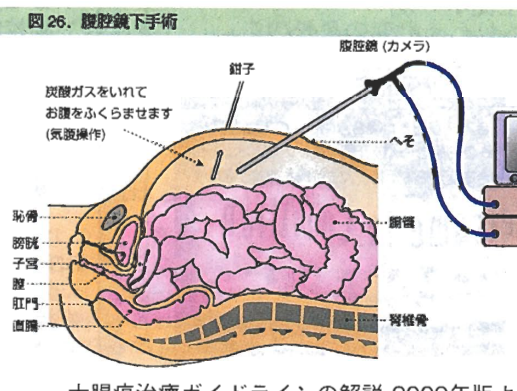
済生会横浜市南部病院診療顧問
がん診療支援センター長 外科部長



日本における大腸癌の年間発生は約10万人と増加しており、がんで亡くなる方のうち、大腸癌が男性では第3位、女性では第1位となっています。大腸癌は50歳代から急激に増加します。症状は盲腸・上行結腸・横行結腸の右側の腸では腹痛、貧血症状、S状結腸・直腸では血便、便秘、排便回数が増加、便柱の狭小などですが、症状が出現する前に検診をうけることにより早期発見、早期治療が可能になります。便潜血反応は検診では有用ですが、個人で前がん状態のポリープの早期発見、治療を行うためには大腸内視鏡検査が非常に有用です。最近では痛みを伴わない大腸CTにより検診を行う施設もありますが、確定診断、組織診断には大腸内視鏡検査が必要です。

大腸癌の治療の中心は外科的切除ですが、早期癌では内視鏡的切除で治療が完了することもあります。手術は近年、急速に鏡視下手術(カメラ、鉗子などを腹腔内に挿入して、小さなキズで腫瘍を含む腸管、リンパ節を取り出し、再建します)で行うことが増加しており現在40%以上の患者さんが鏡視下手術により治療を受けていると言われています。鏡視下手術はキズが小さいため、創部痛がほとんどなく、術後回復が早く、早期経

口摂取、早期退院、早期社会復帰につながります。また、拡大視効果により繊細な手術が可能で、出血はごく少量で、術後の創感染、イレウス(腸閉塞)も開腹手術に比べ低頻度です。結腸癌では開腹手術との比較の海外的臨床試験で、根治性も劣らないことが証明されています。高齢者に対してもよい結果を得ています。短所としては時間が開腹手術の1.5倍〜2倍程度かかることです。しかし腫瘍が大きいい、他臓器に浸潤している、開腹手術後で癒着が予想されるなどの症例では従来の開腹手術で行います。直腸癌の外科治療では永久人工肛門の造設が減少しましたが、部位、進行度によってはやむを得ない場合があります。従来、経肛門的イレウス管や人工肛門を造設していた進行大腸癌によるイレウスに対してステント(腫瘍により狭窄をきたしている部位を拡張するための金属製の網状の筒)を留置して、イレウスの解除を行い、その後手術を行う方法が開発されました。ステントの留置により人工肛門を避けられる症例が増加しています。



大腸癌治療ガイドラインの解説 2009年版より引用

放射線治療が急速に進歩しており、これが手術療法にも影響が大きくなってきます。つまり、腫瘍の浸潤、高度のリンパ節転移を有する症例に対して、まず化学療法を行い腫瘍を小さくしてから、安全に手術を行うことも行われています。リンパ節転移がある症例は、やや再発率が高く、術後に抗がん剤を併用すること(補助化学療法)も行われています。大腸癌肝転移、肺転移は外科的切除により完治する症例も多く、その早期発見、早期治療のために術後の定期的なフォローアップが外科治療成績の向上につながります。

長い間ご協力下さいました皆様には、深い感謝の気持ちを上げますと共に、この後、又、引き継いで下さる方がありますよう祈っております。

鎌倉支部 第三41 久保田雅子
18万円のご寄附を賜りました。
心より御礼申し上げます。

●鎌倉支部会閉会にあたって
昭和37年に、諸先輩方のご盛力により、第一回の鎌倉支部会が開かれましてから、今日に至るまで、始めの頃は、荒川元校長、石川キクノ先生、木下ふさを先生方もご参加下さり、五十年続けて参りましたが、いよいよ本年をもって支部を閉じることに致しました。

今まで本当に沢山の方々にお集まり頂き、東京は言うに及ばず他県の遠方からもご参加いただき、いろいろなお話しに花が咲き、又、「校歌」「感謝」など学校時代のなつかしい歌を歌い、「コチロン」はもちろん「ファウスト」まで踊る方あり、楽しいひと時を過ごしました。「楽しかったから」と翌年もご参加下さるので本当に嬉しいことでした。しかし支部長も高齢となり、後をひきついで下さる方もなく、やむなく会を閉じる決心を致しました。

放射線治療が急速に進歩しており、これが手術療法にも影響が大きくなってきます。つまり、腫瘍の浸潤、高度のリンパ節転移を有する症例に対して、まず化学療法を行い腫瘍を小さくしてから、安全に手術を行うことも行われています。リンパ節転移がある症例は、やや再発率が高く、術後に抗がん剤を併用すること(補助化学療法)も行われています。大腸癌肝転移、肺転移は外科的切除により完治する症例も多く、その早期発見、早期治療のために術後の定期的なフォローアップが外科治療成績の向上につながります。



母校生徒の活躍 (1月現在)

- ◎女子バレーボール部
 - ・インターハイ東京都予選 第5位
- ◎体操競技部
 - ・東京都女子秋季決勝大会 団体総合第2位 個人総合優勝
- ◎剣道部
 - ・全国大会東京都予選 男子個人第3位 女子団体ベスト8 女子個人ベスト8
- ・東京都秋季大会 女子団体ベスト8 敢闘賞
- ◎陸上競技部
 - ・関東大会 1種目1名3位入賞 (インターハイ出場)
- ◎水泳部
 - ・東京都大会 男子総合第7位 女子総合第7位(1種目関東大会出場)
 - ・関東大会 (7種目全国大会出場) 全国大会
 - 男子400mメドレーリレー全国30位
 - 女子400mメドレーリレー全国34位
 - 男子400mフリーリレー全国37位
 - 女子400mフリーリレー全国47位
 - 男子50m自由形全国41位
 - 男子100m自由形全国32位
 - 女子50m自由形全国42位
- ◎百人一首部
 - ・全国高校小倉百人一首かるた選手権大会 団体ベスト8 個人C級第3位 D級優勝 第3位
 - ・全国かるた競技学生選手権大会 個人D級第3位 E級優勝 第3位3名
- ◎関東大会代表選考会 3名選出
- ◎駒場フィルハーモニーオーケストラ部
 - ・全国高校文化祭推薦校に決定
- ◎演劇部
 - ・東京都高校演劇連盟中央発表会 第2位 中央委員会賞第1位
- ◎放送局 (HKH)
 - ・東京都高校文化祭放送部門奨励賞
- ◎新聞局
 - ・東京都高校新聞コンクール佳作賞

これからも母校生徒の応援よろしくお願いたします!

◆同期会開催のご案内◆

駒14同期有志の会 (紫陽花会)

初めての方、再度の方、大歓迎
 日時 6月27日(土) 12時
 会場 楽園菜館
 目黒区鷹番1-2-6
 会費 5,000円
 出席連絡 辻井典子まで
 TEL&FAX
 03-3711-1047
 nori_tin@yahoo.co.jp

※出席連絡締切日 5月31日

駒16古希記念同期会

日時 5月30日(土) 午後2時
 4時
 場所 渋谷エクセルホテル東急
 会費 8,000円
 ※詳細は改めて案内申し上げます

駒17卒業50年記念同期会

日時 5月23日(土)
 午後3時より
 場所 渋谷東武ホテル
 (渋谷公会堂手前・前回と同じ)
 会費 8,000円
 卒業して50年経ちました。

この節目に若き時代の友に会い、大いに語らってリフレッシュしませんか。
 同期の皆さん、是非ご参加を。

幹事 遠藤敬介

駒26還暦を祝う同期会

人生の節目である還暦を期すべくであると考えて予定を延期した同期会を、いよいよ左記の通りに

開催する運びとなりました。これまでに参加経験のある方も今回が初めての方も、一緒に還暦を迎える仲間と相集い、新たな第一歩を踏み出そうではありませんか。

日時 11月7日(土) 13時
 会場 東京ドームホテル
 会費 10,000円
 駒26幹事一同

◆同期会の報告◆

駒4同期会

駒4は終戦の翌年第三高女の最後に入学し、女学校生活も味わった年代です。平成25年の傘寿の会に続いて、中村幹事長以下10名、ベストを目指して五十嵐直代さん宅で何回か楽しい幹事会をしました。

そして、10月8日(水)12時半から、銀座資生堂に近い会員制クラブのBBBに64名が参集しました。3名の物故者への黙禱に始まり、中江元松桜会理事長の同窓会の近況等の後、乾杯し、いくつかのテーブルを囲んでの楽しい食事会となりました。最後に奥山さんのピアノ伴奏で恒例の合唱。終始和やかない雰囲気秋の一日でした。
 堀江 淳子(駒4)

駒5同期会

私たち駒五の会は、2011年9月、最後の会を渋谷エクセルホテルで開催したのですが、それが逆に「呼び水」になったのでしょうか。去年5月18日には「傘寿の会」に65人集まり、代々木俱

楽部で楽しい昼食会をいたしました。参加者全員が一分間スピーチで、近況・思い出・寸感などを披露、印象深い集いでした。

この会には春成幸男(生物) 菱刈隆永(日本史) 山中信夫(英語) 渡部武(社会)の四先生がご参加下さり、私たちよりも若々しい先達振りに接することができ、感銘を受けました。92歳の菱刈先生からは「何歳になっても出来る限り続けなさいよ」との励ましも頂き、有志で今後の方向について検討し、今年5月18日に代々木倶楽部で、形式ばらない集いをするようになりました。
 (藤久ミネ)

松桜会年会費免除のお知らせ

松桜会年会費は、当該年度中に80歳を迎える学年より免除となります。(今年度は駒6及びこれより上の学年の皆さまが年会費免除会員です)

松桜会では一口千円からの寄付を承っております。今後共ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

年会費納入のお願い

卒業後6年目から年会費千円を納めて頂くことになっております。皆様のご協力を切にお願いいたします。

編集部より

松桜会会報への皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

松桜会支部の皆さまへ

松桜会では支部会開催に係わる通信費を補助しております。ご希望の支部は松桜会事務局までお問い合わせください。

寄付者芳名

2014年8月以降、12月末日までに31名の皆さまと鎌倉支部より、合計四十六万千円のご寄付をいただきました。皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

- 駒3 大江 玲子
- 駒4 末永 房子
- 駒4 北嶋 敬子
- 駒4 藤久 芳春
- 駒5 小川 明子
- 駒5 宮本 貞恵
- 駒5 春日 典子
- 駒5 宇田川 三子
- 駒5 稲葉 三四郎
- 駒5 山本 久美子
- 駒5 川島 英子
- 駒5 名取 和子
- 駒5 須藤 憲子
- 駒5 浦川 久裕
- 駒5 太田 裕子
- 駒5 角田 裕子
- 駒5 中谷 隆裕
- 駒5 池田 久栄
- 駒5 原田 久栄
- 駒5 藤本 和子
- 駒5 宇佐美 進一
- 駒5 水野 直房
- 駒5 坂尾 雄子
- 駒5 仲村 至子
- 駒5 高橋 幸子
- 駒5 山本 幸子
- 駒5 濱田 幸子
- 駒5 豊島 幸子
- 駒5 加賀美 幸子
- 駒5 鎌倉支部

松桜会講座のお知らせ(平成27年度上期)

4/18(土) 締切

対象者：駒場松桜会会員・母校教職員・PTA会員 他

申込方法：往復はがきに、次の内容を記入してください。

①講座名 ②郵便番号・住所 ③携帯及び固定電話番号 ④氏名

⑤会員-卒業年度 教職員-所属 PTA会員-お子様の氏名・学年・ホーム

☆返信はがきには宛先の住所・氏名を記入してください。1つの講座につき1枚でお申込みください。

申込先：〒153-0044 目黒区大橋 2-18-1 都立駒場高校内 駒場松桜会事務局

A 講座 講師 小林 緑(駒13)

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業・同大学院音楽研究科修了後、仏政府給費留学生としてパリで学ぶ。国立音楽大学名誉教授。「女性と音楽研究フォーラム」前代表。音楽と女性たちをテーマに各地で講演活動。『女性作曲家列伝』(平凡社)編著、他

クラシック音楽と女性-新しく楽しい学び

決まりきった「大作曲家」の「傑作」を畏まって聴く講座ではありません。クラシックの歴史上、無数にいた未知の作曲家、それも女性に焦点を当て、中でも飛び切り素晴らしい女性たちの作品を聴きながら、音楽を取り巻く社会背景と女性不在の理由を探ります。女性音楽家に特有の衣装や外見の問題、加えて声や楽器もジェンダー視点から再検討します。

- 第1回：男女作曲家の性別は聴き分けられる？
- 第2回：愛される名曲と有名・無名の関係
- 第3回：ピアノが女性向きとされる本当の理由
- 第4回：男のソプラノもあり？さまざまな声を聴く

定員：30名
受講料：2,000円
会場：東館和室

10:30~12:00
6/20(土)
6/27(土)
7/11(土)
7/18(土)

B 講座 講師 谷口 眞子(駒30)

早稲田大学文学学術院教授。博士(文学)。専門は日本近世史。2002年、日本歴史学会賞受賞。著書に『近世社会と法規範一名誉・身分・実力行使』(吉川弘文館、2005年)、『武士道考一喧嘩・敵討・無礼討ち』(角川学芸出版、2007年)、『赤穂浪士と吉良邸討入り』(吉川弘文館、2013年)など。

山鹿素行にみる「治」と「乱」

江戸時代は250年以上、平和が続いたと言われますが、実際にはロシアをはじめとする軍事的脅威にさらされるなど、17世紀~18世紀の日本列島を取り巻く環境は、平和の一言で片付けられない状態でした。本講座では、兵学者として知られる山鹿素行をとりあげ、彼の平時と戦時に対する考え方や、大名に及ぼした影響力について考えたいと思います。

- 第1回 山鹿素行の履歴と津軽信政
- 第2回 津軽藩における兵学受容
- 第3回 治と乱、文と武

定員：30名
受講料：1,500円
会場：東館和室

10:30~12:00
8/13(木)
8/20(木)
8/27(木)

受講生の声

「万葉集」を読むー歴史の中の人々ーを受講して

万葉集から歴史的にも代表的な人物の歌を選び、歴史の流れとともに、権力に翻弄される人間の哀れさ、悲しさを伝えてくださった萩原千鶴先生の講義に感激した。天智天皇が死を迎えたとき、皇太子であった弟の大海人皇子は、天智天皇の意を察し、身の危険を感じ、自分は病が重いので、吉野に入って出家すると固辞する。雪、雨を押して、吉野の山に分け入っていく歌が印象的であった。やがて、壬申の乱で権力を取った大海人皇子(天武天皇)の後継を巡って、大津皇子が死を賜ることとなるが、姉の大伯皇女との姉弟関係が美しく、二上山に葬られた弟を思いこれから「二上山を弟と見よう」という姉の歌に胸を打たれた。

また、帰らぬ人もいる決死の思いで派遣された遣唐使、山上憶良の唐にいたるとき故郷を思う歌もあった。聖武天皇の大仏建立は、陸奥の国に金が産出されて可能となったが、越中国司大伴家持は、それを称える歌を作る。万葉集選者である大伴家持は、万葉集四千首の中の1割を載せている。しかし、讒言により失脚してからは、歌を断っている。武門の古い家柄を自負し、部族に論じている歌に家持の心情が思いやられる。

藤井紀代子(旧姓 山本) (駒10)

「文の京(ふみのみやこ) 路地めぐり」に参加して

歩く時はだいたい目的地への最短距離をひたすら歩く、というのが習い性になってきているような気がしています。スマホのアプリ「マップ」で経路を選択し現在地と目的地を入力すれば、最短のルートが自動的に決まります。そのとおりに歩けば道に迷うことなく目的地に到着できます。

そんな私にとって、「文の京路地めぐり」は意外性に満ち満ちた体験でした。

ガイド役を務められる先輩方が、きつと現地を入念に下見してくださったのに違いないのに、一瞬道を失うほど路地は複雑でした。角を曲がったら背丈よりもずっと大きなお地蔵様が立っていたり、富士講の険しい山がそばにいたり。東京ではなく、江戸がそこにありました。一緒に歩いている方々も散策後に大学の食堂でランチを召し上がったり、天神様の境内で甘酒で暖をとったり、いろいろな楽しみ方をしていらっしやるようにお見受けいたしました。

そのうちたつぷりの時間の余裕ができたなら、ぜひ自分だけの路地めぐりをしたい、と思いました。

水野百合子(旧姓 馬庭) (駒29)